

浴衣を着て盆踊り大会

2班 ジャン・シーモン (中国)

今年の夏は例年よりも暑かったですが、8月初旬に広場の真ん中には盆踊り大会の舞台が早くも立てられ、カラフルなちょうちんがとても目を引き、だんだんにぎやかになりました。

盆踊りの少し前、市岡日本語教室で盆踊りの練習をしました。ボランティアの高田さんと大城さんが、私たちに盆踊りを教えてくれました。炭坑節やドンパン節、河内音頭などいろいろ伝統的な踊りを習って楽しかったです。踊りの練習は4回ありました。私はその内3回に参加しました。

盆踊り大会の日、大城さんは私に浴衣を貸してくれました。そして着せてくれました。初めて浴衣を着て、みんなと歌に合わせて踊っていると、心に幸せな気持ちが生まれました。

舞台の周辺にいる観客はお互いに話しながらお茶やビールを飲んで、時々踊りの輪に加わって一緒に踊っていました。私は知らない踊りを、上手に踊る人の見よう見まねで踊りました。

踊るチームが舞台の中心に同じ方向に進んで、流れ川のようになりました。これは生命の象徴でしょう。

盆踊りは日本のお祭りのひとつ



(特定非営利活動法人) 市岡国際教育協会 市岡日本語教室

● 場所 港区民センター (港区磯路 1-7-17 交流会館 6階)

● 日時 毎週金曜日午後 7 時から 8 時半

e-mail info@ichioka-nihongo.org

URL <http://ichioka-nihongo.org/> phone: 080-3846-2581

です。みなさん一緒に祭りに参加しましょう。

たぶんか かんそう 多文化カフェの感想

3班 シュ・ルーチュン (台湾)

10月12日に行われた港区民まつりの多文化カフェというイベントに参加して、とても楽しかったです。

たくさんの日本の方がブースに来て、私たちと話しました。台湾人なので、「台湾に行ったことがありますか」と聞きました。台湾に行ったことがある人もいて、とてもうれしかったです。行ったことがない人にも、日本のどこが楽しいか聞いてみました。



一番印象に残っているのは、81歳のおばあさんです。私は「大阪でどこが楽しいですか」と聞いたところ、梅田と難波をおすすめしてくれました。以前から日本は平均年齢が高いと聞いていましたが、本当にそうだなと思いました。そのおばあさんはとても元気で、「これから5年間、友達と仲良く過ごして、いろいろな所へ行きたい」という小さな願いを話してくれました。もし86歳になっても、また次の5年の計画を立てているかもしれません。最後に、「あなたたちはまだ若いんだから、がんばってね！」と言ってくれて、心が温かくなりました。81歳のおばあさんでも目標を持って、楽しく生きている。それなら、まだまだ人生が続く私たちは、もっと一日一日を大切に生きるべきだと思いました。

外国人として、海外でいろいろな文化の人と文化の

違いについて話すのは本当に面白いです。日本の方は話すスピードが速いですが、私が分からぬところを優しく説明してくれました。またこのようなイベントがあつたら、ぜひ参加したいです！

秋の遠足 今井町

1班 箱山 広介

11月9日は朝から生憎の空模様。記録的な猛暑となつた夏もやっと終わり、肌寒い中傘を片手に家を出る。鶴駒駅で他の参加者とも合流して集合場所の大和八木駅に向かう。何人かは途中合流が上手くいかず若干遅れて到着ということで、僕は二手に分かれた第二陣で今井町に歩き出す。

今年の春から市岡に参加している僕はこれが初めての遠足。一週間ぐずぐずしていた風邪もだいぶ良くなり、水溜りをよける足取りも軽い。町内に一歩足を踏み入れると、江戸時代以降の古民家が当時のように立ち並び、降る雨が情緒を増す。



瓦屋根の軒下を縫って少し散策した後、今井町の名家今西家に集合して、ご当主の奥様から今西家住宅の歴史を聞かせてもらった。学習者のためにいつもよりわかりやすく説明していただいたが、巧みな話術と興味深いエピソードにみんな熱心に耳を傾けていた。織田信長から下賜された国宝の刀には一同興奮。元々は上杉謙信が信長に贈ったものということもあり、鞘しかなくても嬉々として写真に収めていた。

昼食後にもまだ見足りない参加者数名と別の古民家を見学し、一度解散して藤原京跡まで残ったメンバーで歩くと、灰色の空の下色とりどりのコスモスが咲き乱れていた。何もない草っ原と昔覚えた万葉歌に出

てきた山々を眺めながら、悠久の昔に想いを馳せる。この日は普段の教室ではあまり交流する時間のない人とも話をする機会があり、また少し輪が広がった。もう20年以上前、まだフランスに行って間もない頃、フランス語がよくできない僕を時々友人たちが美術館や名所に連れて行ってくれた。聞いたことも読んだことも全ては理解できなかつたけれど、そんな僕に付き合つて彼らの文化や歴史に触れさせようしてくれた友人たちも含めて、楽しい時間だつた。そんなことを思い出しながら、この日の遠足が学習者にとってもボランティアにとっても、いつか時々思い出すような一日になればいいなど独り言ち、家路に着いた。

時間がゆっくり流れる町、倉敷

4班 晃銘（中国）

倉敷の町には、時間が少しゆっくり流れている気がする。駅を出て、美観地区へ向かう小道を歩くと、白壁と瓦屋根の建物が並び、どこからか川の水音が聞こえてくる。観光客の笑い声が遠くで響いても、この町は静けさを保つ。急ぐ人も、焦る時間も、ここにはいない。まるで昔の日本の絵巻の中に迷い込んだようだ。

倉敷で出会ったものの中で、いちばん忘れられないのは、あの桃太郎からくり博物館だ。木でできた桃太郎の像が、柔らかい光を浴びて立っていた。少し丸みを帯びたその姿は、どこか懐かしく、子どものころに読んだ絵本の一場面を思い出させる。

気がつけば、その像に導かれるように「桃太郎からくり博物館」の入口へと歩いていた。中に入ると、木のぬくもりに包まれた小さな空間に、十数種類の不思議なからくりが並んでいた。桃の中から顔を出してシャツを切る瞬間、まるで自分が本当に「新しい桃太郎」として生まれたような気がした。

橋の上で立ち止まり、風に吹かれながら思う。倉敷という町は、昔話のように穏やかで、静かに人の心を包んでくれる場所だ。

* * *

（投稿者は2024年に来日し、大学で経営学を学ぶかたわら、旅行が好きなことから、ツアーコンダクターの資格を取るための勉強をしています。）